

[1] 工事概要

- 1. 工事名 荘川の里 旧山下家修理工事
- 2. 場所 高山市荘川町新洲地内
- 3. 構造 二階建住宅
- 4. 規模 1階 262.65㎡ 2階 259.83㎡
- 5. 工事範囲

NO	工事部分	面積,数量等
1	主屋屋根 小屋組み修理	149.86㎡
2	主屋屋根 葺替え修理	40.19㎡
3	主屋屋根 補強修理	
4	南東庇屋根修理	8.75㎡
5		
6		
7		

[2] 一般事項

- 1. 総則 この特記仕様書は、工事の作業基準を示すもので、記載なき部分、及び疑問を生じた場合は、全て係員と協議の上施工する。
(係員とは、高山市文化財課担当者、及び工事監理者を言う)
図面、特記仕様書に記載されている事項以外は、国交省大臣官房営繕部及び住宅金融公庫監修の建築工事共通仕様書による
- 2. 工事方針 本建物の修理工事に当っては、本建物の原完成時の形態に準じて施工する事を原則とし、既存部分の寸法、材質、施工方法は、忠実に旧来の当建物に倣うものとする。
- 3. 使用材料 本工事に使用する材料は、全て係員の承認を得て使用する。特に木材については充分なる乾燥材を使用する。又、木材の程度(等級)については、既建物の同位置に使われているものを参考に決定する。
- 4. 施工図等 解体時に於ては、必要に応じ、修理部分を事前に実測し、実測図を作成し検討をする。
又、設計図と異なる施工を必要とする部分については、その部分の施工図を作成し、係員の承認を得て施工する。
又、解体時の写真、施工途中の工事写真は整理の上係員に提出する。
- 5. 安全対策 工事施工にあたり、現場周辺も含め、人的物的被害を及ぼす事の無い様に仮設、養生も含め、充分なる対策を行う。
又、火災保険等を含む建設関係保険は必ず設定する。

[3] 仮設工事

- 1. 適用 修理工事に於ては必要に応じて各種の仮設を行う。
なお、隣家、及び付近の家、住人に迷惑を掛けない様に必要あれば話し合いの上施工する。
道路占有などの届け出について速やかに行うこと。
なお、シート、仮囲い等の色についてはなるべく目立たないものを使用する。
- 2. 仮設工(仮囲)

シート貼	板貼	合板貼	鉄板貼
H=		1.8	m

(仮小屋) 丸太組シート貼 丸太トタン貼
(現場事務所) プレハブ製 建物内事務所
(下小屋) 丸太トタン貼 建物内
(外部足場)

鋼製枠組	丸太組	単管組	脚立
(シート貼)		有	無

(内部足場)

脚立	鋼製枠組	丸太抱足場	ローリング
----	------	-------	-------

(材料保管) 屋外仮小屋 野外

場内指定場所

(養生)

当て板	シート掛	その他	()
-----	------	-----	-----

(設備) 給排水管 水栓等移設 電気及び電話線の移動 盛替

仮設施工に当り、工事全体の安全を考え、危険防止、及び保健上、防火上必要なる安全対策を行うこと。

[4] 解体工事

- 1. 工法 解体にあたり、既存、ほかの部分に影響を与えることのなき様、ていねいに扱うこと。
解体した材料のうち、修理工事に必要なるものは係員の指示により保管する。特に、再使用材については記号を付け、実測、写真撮影し、適当な養生をしたあと屋内に保管する。
再使用材以外のものうち、旧来の工法が良く判り、別途保存が必要なものについては、係員の指示により屋内に保管する。
木材・トタン・土等の解体材は廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び高山市の条例に従って処分する。

[5] 木工事

- 1. 材料 取替材、新補材については原則として、内地材にて旧来と同種類、同等材とし、旧形、旧工法を踏習する事とし、使用箇所により心持材、心去材の区分をし使用する。
- 2. 寸法 設計図書に記入の寸法は、仕上寸法とする。
又、記入寸法は同一部所(柱、梁等)の実寸による事も多く、接続部によっては材の収縮等も考えて、既存寸法より少し大きく採寸し使用する。

令和 8 年度

注一該当する部分は○印、また、材種材厚等は角囲みとする。

荘川の里 旧山下家修理工事	特記仕様書(1)	(縮尺)	一級建築士事務所 岐阜県知事登録 第6923号 協同組合 飛騨設計センター 高山市上三之町29番地 管理建築士 大野二郎	(担当)	山下家 1 一 特記4
---------------	----------	------	--	------	----------------

○ 3. 工 法 旧来の建物建設時の工法に倣う事を原則とする。但し、不明なる場合は同時代の工法を参考に行う。

○ 4. 釘・金物 旧来のもの(和釘.鉄.帯金物…)に倣うのを原則とするが、特記なき箇所については、係員と協議の上、J I S製品にても可とする。
補教用金物については、協議の上なるべく見えない位置で取り付ける。

○ 5. 防腐処理 軸組.床組.小屋組等、指示箇所にて2回塗りとする。
仕上げ見え掛かり箇所については指示により入念に塗布する。

防腐剤 キラモン. キラデコール. クロソート. オイルステイン
アリアン油剤. その他

6. 補 強 構造上、旧来工法にては不完全と認められる部分は、係員と協議の上、そえ木、金物等を用いて補強する。
補強材は古代色等の塗装をする。

○ 7. 主要使用木材

No.	使用部分	引立寸法	材 種				等 級						備 考		
			桧	松	杉	その他	無節	極上小	上小	小節	1等	2等			
1	(主屋)														
2	真 木	51×51			○								○		
3	垂 木	155×155	○		○								○		芯持もの
4	広小舞、淀	105×21			○								○		
5	棟 木	155×30			○								○		組み立て
6	母 屋	170*205	○										○		芯持もの
7	桁	170×205	○										○		
8	野地板	厚23			○								○		合決
9	破風板	250×50			○								○		
10	板止め	180×30 80×30			○								○		
11															

No.	使用部分	引立寸法	材 種				等 級						備 考		
			桧	松	杉	その他	無節	極上小	上小	小節	1等	2等			
12	水 切 り	40×40												○	
13															
14															
15	(庇屋根)														
16	垂 木	52×52	○		○									○	芯持もの
17	広小舞、淀	105×21	○											○	
18	野地板	厚17	○											○	合決
19	破風板	180×30			○									○	
20	壁 板	15													
21															
22															
23															
24															
25															
26															
27															
28															
29															
30															
31															
32															

令和 8 年度

注-該当する部分は○印、また、材種材厚等は角囲みとする。

荘川の里 旧山下家修理工事	特記仕様書(2)	(縮尺)	一級建築士事務所 岐阜県知事登録 第6923号 協同組合 飛騨設計センター 高山市上三之町29番地	管理建築士 大野二郎	(担当)	山下家 2 一 特記4
---------------	----------	------	---	------------	------	----------------

○ [6] 屋根工事

1. 横長尺葺き			
材 料	J I S 製品を使用する。		
[材 種]	か-鉄板	耐磨か-鉄板	その他 ()
[材 厚]	0.35mm	0.40mm	0.50mm

葺材寸法
 [平葺部分] 910×910 910×1820一軒先 その他 ()
 [瓦棒部分] L=2,000以内 3,600以内
 真木間隔は910間隔、または606間隔とする。
 釣子は、板1枚につき上下とも2枚以上とする。
 防水紙は、アスファルトルーフィング940品巻き製品を用い、重ね張りとし、真木部分は更に1枚で覆う。
 はげ部分は、一般にはコハゼ掛けとし、特記ある場合はマキハゼ掛けとする。瓦棒軒端は前包みをなし、棟では面戸板にて目切り上に箱棟、又は泥障板を置いて包板で包む。但し、防水材については特記の場合もある。

2. くれ葺き 屋根小舞の上に横方向は四枚目踏目地、縦方向は六分の一葺足 (約135) にて下より葺き上がる。大屋根の棟部分は更に押さえくれ5枚重ねに鉄板くれ2枚かさね、更に長くれ2枚を置き、置石とする。なお、下屋部分は、上部妻屋根下で更に5枚重ね、置き石とする。
- | | |
|-------|---------|
| [材 種] | 栗へぎ材 |
| [材 厚] | 5~9mm |
| [材 巾] | 120~180 |
| [材 長] | 720~800 |

○ 3. 屋根下地 野地板の上には、下地材として下記のを重ね使用する。この場合、隙間が生じないように、丁寧に貼る。

[断熱材]	耐火木毛セメント板	19mm	20mm	30mm
[防水材]	アスファルトルーフィング	940		

4. 日本瓦葺 材料は J I S 製品を使用する。(一等品)
- | | | | |
|-------|-------|-----|---------|
| [形 状] | 五三板 | 六四板 | |
| [種 類] | 引掛棧瓦葺 | 本瓦葺 | その他 () |
- 役物の鬼瓦、棟各種瓦、降棟、隅瓦、軒先瓦、袖瓦等は旧来の形に倣うのを原則とする。但し、旧来の材料が構造的に弱い場合は、係員と協議の上、耐寒性の有る瓦材料にても可能とする。
- 平葺部分は、けらば軒から3枚通りを1枚毎に銅線 (#18) 針にて下地に留め付け、鬼瓦、棟ついてはずれを生じないように、特に入念に施工する。又、慰斗部分、棟部分、腰部分は特記により裏込め漆喰塗込とする。
- 下地は、アスファルトルーフィング 22kg / 品巻き製品2枚重ね張りとする。なお、瓦材は下部タテ通し、上部ヨコ通しとする。
- | | | | |
|---------|-----|--------|-----|
| [瓦 種 類] | 陶器瓦 | 耐寒いぶし瓦 | その他 |
|---------|-----|--------|-----|

[7] 内装工事

1. 壁 材 水屋の詳細部について、ステンレス板、塗り壁及びクロス貼の工事部分は、棚取付を十分打合せ後施工する。
2. 床 材 床のタイルカーペット施工前に、既存のビニールシートをはがし、下地床を平滑にしたのち、施工する。リノリウム床も同様に行う。

- 2. 板止め 図示ある場合板止め、及び幕板を鉄板巻きとする。
- | | | | |
|----------|--------|---------|---------|
| 幕板 [材 料] | か-鉄板 | 厚0.35mm | 厚0.40mm |
| | 耐磨か-鉄板 | 厚0.35mm | 厚0.40mm |
| | 銅板 | 厚0.40mm | 厚0.50mm |
- 板止め受金物は、F B-30~45mm×厚4.5mm、5.0mmとし垂木上部彫り込み釘打とする。正面縦寸法は、かぶせ部分直下までとし、鋼製ビス (φ6×50 程度) にて板止めに留める。
- 塗装は合成樹脂塗装とする。

[8] 左官工事

1. 種 類 当工事真壁造左官壁の種類は下記のとおりとする。
- | | | | | | |
|-------|----|-----------|-----|-------|-------|
| [種 類] | 土壁 | 黄 (鼠) 大津壁 | 漆喰壁 | ジュラク壁 | モルタル壁 |
|-------|----|-----------|-----|-------|-------|
2. 大津壁・土物漆喰壁
- ① 下 塗 泥土に糞すきを混入したものを小舞下地に塗り、貫と平坦に壁付する。これに用いられる材料は、普通川底の泥土や粘土、又荒木田とする。すきは打糞5cm位とする。乾燥後、同一土にて裏返しをなし、凸凹直しのためむら直しを行う。
- | | |
|-------|--|
| ② 中 塗 | 粘土、及び砂を4対6の割合に揉すきを適量に混ぜた土で、貫面より9mm厚に平らに塗布する。又、貫伏と称し、寒冷沙を貫と土の間に塗り込む。又、細クシにてこした「ノロ」を生湯き時に撫で上げる。すきは麻すき、さらしすき。 |
| ③ 上 塗 | 仕上げを意味し、上塗りに用いる材料によって、大津壁、漆喰、土物壁等の種類に分かれる。 |
- ④ 大津壁 海苔を用いず、石灰に粘土、及びすきを混ねりしたもので、粘土の色により各種の名称がある。
- 例 黄大津. 茶大津. 鼠大津

令和 8 年度

注一該当する部分は○印、また、材種材厚等は角囲みとする。

荘川の里 旧山下家修理工事	特記仕様書 (3)	(縮尺)	一級建築士事務所 岐阜県知事登録 第6923号 協同組合 飛騨設計センター 高山市上三之町29番地	(担当)	山下家 3 一 特記4 管理建築士 大野二郎
---------------	-----------	------	---	------	------------------------------

3. 漆喰壁 石灰、又は貝灰に海苔（角又類）及びすきを混合練したものを漆喰という。
 下地組は大津壁、土物壁も同一であるが、木摺、及びすぐり芽材を小舞縄（細縄）にて組み、荒壁から塗り付ける。
 漆喰塗調合については、旧来の調合による。
 又、諸材料は角又4.7kgに対して、水、約115リットルを用いて充分煮沸溶解し、3厘目櫛にて濾過し、溶液の熱い間にすきを混合し、この溶液をもって砂類及び灰類を練にて充分混和する。
 壁色の仕上は、灰墨、群青、酸化黄、黄土、紅柄、など係員の指示による。

4. プラスター プラスター-石膏、消石灰、すき等を水練したもの。
 [種類] 石膏プラスター、ドロマイトプラスター(石灰性)

5. 下地ボード ラスボード シージングボード+ラス
 木摺り+ラス+防水紙

[9] 覆い壁工事

1. 下地ボード 木毛セメント板
 シージングボード+ラス
 ケイカル板 厚6
2. 柱材 桧1等 既存」軸組を補強する。
3. 板材 杉 縦板張相決 厚12
4. 壁材、押え縁 杉材

[10] 木製建具工事

1. 工法 寸法、仕上程度については旧来のものに倣い修理する。特に仕口については、ほぞ通しや鎌落しなど、詳細について旧来の工法を踏習する。
 又、戸車、引手、錠等の金物についても旧来のものに倣い、寸法等を含め、十分に係員と協議の上決定する。
2. 塗装 外部建具は、建物本部分色と調和する色とする。

[11] 塗装工事

- 1. 塗装 ・クレオソート・キシラモン・キシラデコール・紅殻
 木部塗装剤土台、小屋組、軸組、床組等の見え隠れ部分は、特に入念に施工する。塗り階数は、全て2回以上とする。
 上塗り仕上は透明ラッカー塗りとする。
 既存新設共塗装後のふき取りを十分に行う
- 2. キシラディコール塗
 2色、又はそれ以上の色を混合にて使用する。一般には、建方、組立以前に塗布し、組立後仕上げ塗りをする。

3. 紅柄

① 材料.工法
 [紅柄] 従来の衆造古風高尚付粉、又は紅柄粉、合ばいを使用。
 [黒色] 松煙、又は黒色細粒粉使用。
 上記の2種類、又はそれ以上のものを混合練り合わせ、水（又は酢酸）にて溶き、適当なる濃さで、木材に布で塗布し拭き取る。

② 仕上 充分乾燥した後、えの油にて布付け拭きを行う。
 全

4. 火塗料

木部指定個所には防火難燃塗装を施す。
 又、キシラデコール等で着色したものはその上に塗装する。

① 材料
 木質用難燃塗料 セルフレッシュ
 (一液湿気硬化型ウレタン樹脂、淡黄色液体)

② 工法
 ● プライマー塗布 (ローラー刷毛、スプレー) 0.1kg/㎡
 ● セルフレッシュコート塗布 4回塗 各0.15kg/㎡
 (ローラー刷毛、スプレー)
 ● トップコート塗布 (ローラー刷毛、スプレー) 0.15kg/㎡
 ● 養生 常温 24時間以上

[12] 設備工事

- 1. 自動火災報知設備
 修理工事に於て、既存の機器や配線の移動や取替が必要な場合は従来に倣う。
2. 耐熱電線
 修理工事において、既存電線の移動や取替が必要な場合は耐熱電線を使用する。

令和 8 年度

注一該当する部分は○印、また、材種材厚等は角囲みとする。

荘川の里 旧山下家修理工事	特記仕様書 (4)	(縮尺)	一級建築士事務所 岐阜県知事登録 第6923号 協同組合 飛騨設計センター 高山市上三之町29番地 管理建築士 大野二郎	(担当)	山下家 4 一 特記4
---------------	-----------	------	--	------	----------------